

連載

鉄道写真家 櫻井 寛

# 列車で行こう!

Let's go by train!

Railway-Photographer Kan Sakurai



## 第2回「藍よしのがわトロッコ」で行こう!



**四** 国一の大河が吉野川である。坂東太郎(利根川)、筑紫次郎(筑後川)、四国三郎と称される三大暴れ川のひとつだが、吉野川の流域は江戸の昔から稲作よりも藍染めが盛んな地。そこで「藍」をテーマにした「藍よしのがわトロッコ」が誕生した。春から秋にかけて土日祝日を中心に走る観光列車で、徳島発の下りと、阿波池田発の上りの1日1往復。私は阿波池田駅14時33分発の「藍よしのがわトロッコかちどきの風」に乗車した。列車は2両編成で先頭の2号車が窓のある特急車両、2両目の1号車が窓ガラスのないトロッコ車両である。トロッコに乗車できる区間は阿波池田駅から石井駅まで。そこで、発車と同時に1号車のトロッコ車両に着席した。トロッコ車両は屋根はあるが窓ガラスはなく、吹きさらしである。吉野川はまだ見えないが、車窓を流れる風が実に気持ちがいい。

阿波池田駅を発車しておよそ10分後、辻駅を過ぎると進行方向左側の車窓に大河が寄り添ってきた。吉野川である。あたかも森の葉緑素を溶かし込んだかのような濃緑色の流れである。その水面を眺めるうちに、列車は貞光駅に停車した。藍の集散地として栄えた地である。そして、貞光駅では車内販売用の駅弁が搭載された。実は沖縄県を除く全国46都道府県の中で、唯一、駅弁のない県が徳島県だった。けれども、元々なかったわけではない。諸般の事情で数年前になくなったのだ。ところが「藍よしのがわトロッコ」の運行に合わせて見事復活した。その名は「阿波尾鶏(あわおどり)トロッコ駅弁」。徳島の地鶏、阿波尾鶏を使った鶏めし弁だ。味は阿波弁で「おぶける(驚く)ほどうまい!」終着の徳島駅到着は17時4分。今宵の宿は白砂青松の地、大神子海岸に面した「徳島ユースホテル」で決まり!



鉄道写真家 櫻井寛

1954年長野県生まれ。鉄道員を目指し昭和鉄道高校に入学したが、在学中に鉄道写真の魅力にとりつかれ写真家に転向、日本大学芸術学部写真学科卒。出版社写真部に15年間勤務。90年にフォトジャーナリストとして独立し、今日に至る。93年、航空機を使わず陸路・海路のみで88日間世界一周。94年『鉄道世界夢紀行』で交通図書賞受賞。旅した国は95カ国、渡航回数は250回超。写真集『列車で行こう! The Railway World』(世界文化社刊)など著書多数。日本写真家協会、日本旅行作家協会会員。東京交通短期大学客員教授。



日本ユースホステル協会は日本国内にユースホステルを設置・運営すると共に、国際ユースホステル連盟 (Hostelling International) や各国のユースホステル協会と協調し、知見を広める「旅」を促進する活動を行っています。

こどもはおとなに。  
おとなはこどもに、  
なれる場所。



# Hostelling Magazine vol.38



Cover Interview  
ガンバレレーヤ  
挑戦できることがあるって、  
幸せなこと！

P.02



Youth Hostel Pick up  
屈斜路原野  
ユースゲストハウス  
ひがし北海道の大自然に身を預け  
心洗われる「癒しの宿」

P.08



Hostelling Magazine  
× 地球の歩き方  
紅葉に彩られる  
カナダ東部のフレンチタウン

P.12



鉄道写真家 櫻井 寛  
「列車で行こう！」

P.16



松島むうの  
晴れときどき旅びより

P.18



YH-GUIDE  
ユースホステルガイド  
福島県 / 栃木県 / 群馬県  
千葉県 / 東京都 / 神奈川県  
山梨県 / 新潟県 / 富山県  
石川県 / 長野県

P.20



Hostelling Magazine vol.38  
まとめてダウンロード

※本誌の情報は2024年9月20日現在のものです。変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。

発行所 一般財団法人日本ユースホステル協会 編集・発行人 寺島 真

TEL (03)5738-0546 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1国立オリンピック記念青少年総合センター内

※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。